

平成30年度 議会による行政評価
小戦略評価取りまとめ【社会文教委員会】

基本目標	3 地育力が支える学び合いで、生きる力を持ち、心豊かな人材を育む
小戦略	① 飯田らしい小中連携・一貫教育の推進
①【評価できること】	
清水	・中1ギャップによる不登校者数0人。
古川	・授業の質的向上が図られているとあるが、資料データ全国学力・学習状況調査の数字からは学力が伸びているとはいえない。むしろ後退している。評価は甘いと考える。
山崎	・「全国学力・学習状況調査」において、探求的な学力を高めることが課題として明確になった。
永井	・「多くの教科で小中一貫カリキュラムの作成」を目指していること。
福沢	・
新井	・飯田市オリジナルに対して、教職員が対応してくれている。
吉川	・「課題に対して、自ら考え、自分から取り組む」という方向性に対し、検証が行われている。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・クロス集計の検証のみで留まっているのがもったいない。
古川	・数値やデータを元にもう少し科学的に評価出来ればと考えます。
山崎	・中一ギャップは解消されたとはいえ、不登校児童数は高止まりの状況があり、この問題への対応。
永井	・別冊データ集「学力の向上」からはとても向上しているとは思えない。先進地視察では成果が上がっていたと思う。 ・現状からすると、不登校に対する取り組みが不十分ではないか。
福沢	・不登校が増えている現状、対策が急がれる。
新井	・教職員が本来重点を置くべき学力向上への取り組みへの支援。
吉川	・中学校区ごとのカリキュラムの作成を進め、全教科において実践をされたい。又、コミュニティスクールとの整合性を図られたい。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・クロス集計の検証結果を踏まえ、分析し活用したらどうか。（課題に対して自ら考え自分から取り組んでいた児童生徒とそうでない児童生徒とは10点以上の差がある）
古川	・今後の変化課題の部分で学級担任の力量アップなど課題とされていましたが、今年4月より高学年での外国語授業が始まっており職員会議の時間もきちんととれているのか心配です。教職員・先生方の働き方や健康にも留意していただきたい。
山崎	・小中連携・一貫教育の意義を、保護者がしっかりと理解できるような取組。
永井	・幼稚園、保育園と小学校との連携を図る視点を重視すること。主な関係課に子育て支援課が入っていない。 ・リニア時代を見据えて、飯田市に人を呼び込むためには、小・中・高等学校における学力の向上も大事。
福沢	・先生の働かた改革を具体的に進められたい。
新井	・連携は熟度を増してきた。そろそろ連携ではなく、9年を通して学べる学校としての一貫校へのシフト。
吉川	・不登校児童対策については地域での支援について検討をするべきである。児童への直接的な支援だけでなく、家庭環境への改善が望まれる。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	3 地育力が支える学び合いで、生きる力を持ち、心豊かな人材を育む
小戦略	② 地域と学校がつながる飯田コミュニティスクールの立ち上げと推進
①【評価できること】	
清水	・全小中学校で飯田コミュニティスクールが立ち上がったこと。
古川	・なし
山崎	・まずは「コミュニティスクール」を立ち上げた。
永井	・まずは全小中学校にコミュニティスクールが導入できたこと。
福沢	・設立年度に各学校の実践をつづった報告書をまとめたこと。
新井	・地域の皆さんのご理解と行動。
吉川	・出来るところからコミュニティスクールを立ち上げた。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・住民の理解がまだ深まっていない現状とあるが、そうはいつでも始まってから一年経ち時間ばかり経過している。秋口に中間総括など行ってはどうか。
山崎	・学校運営協議会での内容の公開。 ・「地域住民の理解がまだまだ深まっていない」との記述があるが、学校の先生の理解もまだまだ。
永井	・
福沢	・
新井	・地域間の取り組みの温度差。
吉川	・中学校区毎のコミュニティスクールの再編成 ・コミュニティスクールの理解を深めることと、学校運営協議会の機能の向上。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・学校の課題が地域の課題となっていることを踏まえ、コミュニティスクールは子どもたちだけのものではなく、地域全体のためでもあるという意識付けを地域住民に行ってはどうか。・情報をさらに共有することにより、横展開につなげたり、同じような課題を持つ地区同士が協力し合う取組みにつなげていくことが必要でないか。・地域人教育と連携し、学生ボランティアによるアフタースクール等はどうか。
古川	・各学校のボランティアさん同士の交流や懇談を行ってはどうか。
山崎	・教育委員会に、コミュニティスクール担当者を専任でおく。
永井	・
福沢	・コミュニティスクールスクールの専門官が必要ではないか。
新井	・学校内カリキュラムも分業が必要と考える。①本来の学力向上②地域歴史伝統文化③クラブスポーツ・カルチャー等
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	3 地育力が支える学び合いで、生きる力もち、心豊かな人材を育む
小戦略	③ LG（地域・地球）飯田教育の充実
①【評価できること】	
清水	・
古川	・世界と結びつけて考える場面が多くなったとあるがどの様にしてそう判断したのか今ひとつはっきりしない。やはり数値やデータでの分析が必要と考える。
山崎	・「これまでの成果」に、「地域への愛着の心が醸成された」とか「他地域や広く世界と結びつけて考える場面も多く なった」とあるが、なにをもってそう言えるのか、その理由や根拠が記されず、評価ができない。
永井	・この視点は21世紀を生き抜く子どもたちにとって的を射ている。
福沢	・
新井	・この項目があり、意識されていること
吉川	・
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・説明の中でいきなり世界との比較は子どもたちもイメージしづらい。とし身 近なところから比較しているとありました。良いことと思い引き続きお願いしたい。これからもふるさとをおもう心を育てる教育に努めていただきたい。
山崎	・「G視点を踏まえて、どういう教材で学習活動をさせるか学校では苦慮している」とあって、今後の方向性において 「地域・公民館にも定着を図る」とあるが、学校で苦慮しているものをどうやって地域・公民館に定着を図るのか。
永井	・「どういう教材で学習活動をさせるか学校では苦慮している」という。今年国際人形劇フェスタを縁にして、1つの学校が1つの外国劇団との交流を今後も続けることでLG教育の突破口としてはどうか。
福沢	・
新井	・世代間ギャップの解消はできないことは承知しているが、少しでも歩み寄れるプログラムは必要だ。
吉川	・講師について等、地域や公民館ばかりでなく企業との連携も必要となり、専門的な知識が必要となるため、組織体系を明確にする必要がある。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・ 農家民伯で訪れる外国人大学生との連携はどうか。
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	・ リニア時代、様々な国の皆さんが訪れていただかねばならない飯田市。それぞれ持つ当たり前を受け止め、おもてなしに置き換えていかなければならない。世界とつながっている民間企業から、その接し方を学ぶ仕組みが必要。
吉川	・ 「ふるさと飯田に愛着を持つこと」と「地球規模で物事を考え行動すること」の関連性・必然性が明確でない。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	3 地育力が支える学び合いで、生きる力を持ち、心豊かな人材を育む
小戦略	④ ICTを活用した教育課題への対応
①【評価できること】	
清水	・
古川	・
山崎	・モデル校を中心に、ICT教育を実践する環境が形成されつつある。
永井	・現在は、モデル校で取り組みそれぞれの課題を整理した段階で、すべてはこれから。まずは、ICT教育環境の整備と教員が使いこなせるかどうか。
福沢	・モデル校の中で小規模校、不登校に対してICTの良さを生かしていること。
新井	①私が10年ほど前に訴えた事がようやく日の目を見ること。 ②良い意味で外部から教育長を招聘し、凝り固まった意識を打破したこと。
吉川	・環境整備に着手した。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・ICT教育の目的の周知。（21世紀型スキルを身につけるためのICT教育環境整備ということを）
古川	・取り巻く環境・変化の中で、授業を行う教員の指導力向上が重要とあるが、今後講習や研修をされると思うが教職員の皆さんの過度な負担にならないか 心配である。
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	①ICTのうまみを活かしきれていない。 ②県教委と市教委の壁。
吉川	・「H32までに全校への展開を目指します」とあるが、周辺町村と比べても進み方が遅いと感じる。試行した3校の実証を早急にまとめ、展開すべきである。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・モデル校がICTを活用したことで、21世紀型スキルの習得にどうつながったのかについての調査、検証、分析。
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・すでに始めているが、ICT教育の中でSNSとの関連で子どもにとって注意すべき点を伝えていくこと。
新井	①本来は長野県教委が主導し、教師の指導力向上と安定化を図らねばならないところではあるが、今は市が率先するしかない。であれば、広域連合議会の一般質問でも提言したが、域内先進地である喬木村を学び、14市町村共通のプログラムをクラウド化し、教職員の人事配置変更でも差異が少ない状況を構築すべきである。 ②文部科学省と総務省、経産省と連携を取り、地方創生リニアICT特区で思い切ったかじ取りが必要。そのためには政権与党との連携が必須。
吉川	・カリキュラムを整備し、情報の共有を図れるようなシステムを検討すべき。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	3 地育力が支える学び合いで、生きる力を持ち、心豊かな人材を育む
小戦略	⑤ 高校生を対象とした地域人教育の推進
①【評価できること】	
清水	・
古川	・地域人教育を通して飯田OIDE長姫など地域の方との交流が出来ていると感じます。
山崎	・水引関連など、地域に密着したテーマを取り上げて、具体的に取り組んだ。
永井	・結果として飯田OIDE長姫高校入学希望者が増えていること。
福沢	・
新井	・その取り組み全て。
吉川	・松本大学との連携をする中で、カリキュラムも統制され、講座として推進されている。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・今後の変化のところで、受け入れる地域側のマンパワーが十分でないところがあるが、逆にそういった地域に入り高校生に指摘していただき地域が元気になれば良いかとも考える。
山崎	・
永井	・下伊那農業高校や普通科の高校に対してどのようなカリキュラムを提示できるか。
福沢	・
新井	①その取り組みを残念ながら知らない特に大人への周知。 ②四年制大学がないエリアの一つの処方箋と思う。この取り組みを活かし、学ぶことの意味や社会との繋がり、そして社会から必要とされるスキルは何なのか実践を通して体感できるプログラムの拡大。
吉川	・高校は県教委の管轄であることと、市教育委員会の立ち位置の明確化。 ・普通高校に対する展開をどのように位置付けていくかが課題。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・ 課題であげられている高校と地域とのコーディネート機能の一つとして、飯田コミュニティスクール（学生ボランティア）との連携はどうか。
古川	・
山崎	・ 実践事例の広報に力を入れ、まずは取り組んだ生徒の皆さんの達成感を醸成する。そのうえで、そういった生徒さんの体験を聞ける場づくりをしながら、横展開を図っていく。
永井	・
福沢	・
新井	①他の域内高校への水平展開 ②そこで学ぶ生徒と、次世代に期待する議会や行政との連携。すなわち、これほどまでに停滞している投票率を見てもなお変わろうとしない現状を止めるためにも、ジェネレーションギャップ解消として、直接若者のニーズと行動を理解できる場作りが必要。
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす
小戦略	① 「伊那谷の自然と文化」への玄関口 飯田市美術博物館の魅力度アップ
①【評価できること】	
清水	・
古川	・ 菱田春草の常設展示を開始したことは大変な成果であると考ええる。
山崎	・ 「菱田春草の常設展示」が開始された。
永井	・
福沢	・ 春草展を常設したこと。
新井	・ 本物志向で取り組んでくれる学芸員と美術博物館の存在。
吉川	・
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・ 目標数の目的（根拠）の明確化が必要ではないか。 ・ 目標来館客数の細分化した目標設定化。（月次、展示ごと、新規客数、リピーター数等）
古川	・ 春草の展示をしたが、実際市民の皆さんはどのくらいの方が見学に来られたのか。展示していること自体知っているのか。不安である。
山崎	・ 菱田春草生誕地とともに、春草の内外へのアピールの強化。
永井	・
福沢	・
新井	・ 地域にある本物への市民の理解度と発信力 特に次世代へのアプローチと全国に存在するそれぞれのマニアとの連携。
吉川	・ 目的はあるが、その目標が明確でない。 ・ プラネタリウム事業など、イベントのターゲットにする年代別の検討をするべき。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・量的な目標と質的な目標の設定が必要と考える。満足度を目標設定かしたらどうか。
古川	・ここは予算もつけ郷土の宝である春草の展示を見学していただくこと。具体的に各自治体ごと日時を決め、この日はこの自治体の方は半額、等のことをして市民の皆さんに美博にきていただくことから初めてはどうか。
山崎	・
永井	・
福沢	・春草展を起点に市内のゆかりの場所を歩くよう観光課などと検討すること。
新井	・ビハク祭り等、現在のプログラムに加え、新規のゾーンを加え、気が付かなかった価値の向上。
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす
小戦略	② 国指定の史跡名勝の保存・整備・活用
①【評価できること】	
清水	・
古川	・新たに学習ツアーを開始しましたが、名古屋・奈良から26名とのことでした。
山崎	・「飯田古墳群」の保存活用のための整備が進んだ。
永井	・
福沢	・
新井	・本物志向で取り組んでくれる学芸員と美術博物館の存在。
吉川	・
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・活用の視点が弱い。（保存、整備のためには活用していかなければ継続性がない）
古川	・
山崎	・観光課、観光公社等との連携の強化。
永井	・主な関係課に観光課が入っているが、「天竜峡を念頭に置いている」とのこと。また、古墳群を対象とした学習ツアー催行に連携協力したとのこと。今後は、国指定の史跡名勝を対象とした観光や学習など、交流人口の拡大に資するよう積極的に取り組まれない。
福沢	・
新井	・地域にある本物への市民の理解度と発信力 特に次世代へのアプローチと全国に存在するそれぞれのマニアとの連携。
吉川	・恒川清水の水が枯れた現在の状態を公開するよりは、当時はこのように水が湛えられていたと言う事が市民への認知度を高めるには必要である。又、古墳群についても石室を見るだけではなく、内部に石棺や埋葬品などが展示されると、市民にも認知されやすい。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・活用（その地域に少しでもお金が落ちる仕組みづくり）をするためには、事業者（地元商工会等）へ情報提供し、連携を呼びかけたらどうか。
古川	・市民の方の認知度を上げる・小中学生へのアプローチとありましたが、やはりぱっとしたくないのが要因かと思われます。ここは人形劇の街と言うことと連動して「史跡戦隊ゴンガマン」…各古墳群や史跡を守る設定…なるキャラクター・もしくはゆるキャラを作成しPRをしてはどうか。
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	・ビハク祭り等、現在のプログラムに加え、新規のゾーンを加え、気が付かなかった価値の向上。
吉川	・飯田下伊那には石仏が多くあると聞く。調査対象として追加すべき。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす
小戦略	③ 人形劇の世界都市としての推進力・求心力の向上
①【評価できること】	
清水	・
古川	・ヨーロッパ地域以外では初めてとなるAVIAMAが開催されることは大変な成果である。
山崎	・ここまでの取組は、本年8月の世界フェスやAVIAMA総会開催に向けたものが中心で、その結果が出ていない現段階で評価することは出来ない。
永井	・
福沢	・人形劇が40周年を迎えられたこと。
新井	・市民が主導で取り組み、価値を高めてきたこと。
吉川	・多くの地域から参加し、40周年を迎えたこと。 ・ヨーロッパ以外ではじめてAVIAMA総会が開催されること。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・今後の方向性（長期ビジョン）が弱い。 ・飯田の観光資源としても捉え、主な関係課に観光課を加えるべきではないか。
古川	・「さんしょうお」など市民の創造のばが広がっているようだが、練習場所や大道具置き場などしっかりとした支援をされてい。
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	・小さな世界都市と標榜するわりには、世界標準語 英語への取り組みが弱い。
吉川	・

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・50周年、100周年を見据えた、また、目指した方向性、そのために今やるべき取組みを盛り込む必要があるのではないか。 ・人形劇の支える力の充実を図る取組みも必要ではないか。
古川	・
山崎	・「小さな世界都市」のなかで大きな比重を占める人形劇であるのなら、夏の一時期のみの発信でなく、一年を通して人形劇を発信できる取組が必要。
永井	・リニア時代を見据えて、交流や観光という視点をもって取り組むこと
福沢	・人形劇を通じて、世界への発信力について常に検証すること。
新井	①世界に6つしかないリニア駅を保有する市となる責任とチャンスは、今まで通りのプログラムでは活かすことはできない。田舎ならではの無くしてはいけないものは守らねばならないが、首都圏や時代の最先端をも理解できる取組みも必要。②大手観光エージェントから聞くと、人形劇は、認知されていない。内輪で終わらせるつもりならばそれでよいが、わたくしは日本中、世界中からの誘客もリニア時代には必要と考える。
吉川	・50周年に向けてどのように展開していくのかの方向性を定めるべき。
確認	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>
評価の視点	<p>①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか）</p> <p>②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか</p> <p>③課題認識はあっているか</p> <p>④今後の方向性はあっているか</p>

基本目標	4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす
小戦略	④ 「地域振興の知の拠点」の形成に向けた取組みの推進
①【評価できること】	
清水	・
古川	・ 現在旧かなえ東保育園にて開設しているが今後どのような場所に移るのか先が見えてこない。
山崎	・ 「地域振興の知の拠点」形成は、ほとんど進展がみられていない。従って、評価出来ない。
永井	・
福沢	・ あまり日の当たらない「遊廓」や「養蚕労働」について歴史研究所で講座を開いていること。
新井	・
吉川	・
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・ 取り巻く状況、変化の予想の中で、「懸念」とあるが、懸念と捉えているのであれば懸念ということだと思うが、新たな文化形成を目指すのであれば、ピンチをチャンスに、積極的な姿勢で捉え、取り組む姿勢が必要ではないか。
古川	・
山崎	・ 早く「地域振興の知の拠点」のあるべき姿の構築を進めるべき。これなくして、議論も作業も進まないと思われる。
永井	・ 当初考えていた「地域振興の地の拠点」の方向性は変わっていないとのこと。当事者目標評価シートにあるように「リニア時代を見据えた全庁的な取組みの中で協議」を進め、4年後といわず2、3年後には具体的な成果を示すこと
福沢	・
新井	・ 座光寺を拠点とするエリアの呼称と紛らわしい。
吉川	・ 「地域振興の知の拠点」という表現は、過去の検討段階での表現であり、不適切のため訂正が必要。例えば「文化の拠点」 ・ 早急に、歴史研究所・中央図書館・美術博物館を中心として、史跡・祭り文化等を含めた拠点構想を明確にする必要がある。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	①他のエリアの文化等知らずして、自身のエリアの良さはわからない。当たり前化してしまっているため。
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	4 自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす
小戦略	⑤ 遠山郷の魅力の顕在化と情報発信
①【評価できること】	
清水	・
古川	・
山崎	・ 遠山川の埋没林と埋没樹を市の天然記念物に指定し、情報発信した。
永井	・
福沢	・
新井	・ 遠山エリア在住の皆さんの果敢な取り組みと結果を出している事。
吉川	・ 各種指定、認定、登録が進められてきた。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・ 情報発信やアピールは今後も強化しながらも、そこからさらに一步前進しなければ（活用しなければ）保存継承はさらに難しくなっていくと思われる。
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	① 普遍的な価値に気が付いていないこと ② ユネスコブランドを中心とした、様々な遺産登録等のインパクトの重みを周知できず、その価値を目減りさせている
吉川	・

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・当事者が何を望むのかの議論の場、合意形成を行う取組みが必要であるとする。（継承には大きく分けて2つの考え方があると思う。受け継いできた伝統を正確に継承していくという継承と、時代の変化に合わせて変化を伴う継承があるとする。）
古川	・遠山郷の魅力（まつり・自然）はもとより飯田のをどの様に発信していくのか。毎月一度くらい各地域の獅子舞やお祭りなど、東京や名古屋などにアウト向きPRしてはどうか。
山崎	・南アルプスの玄関口の一つとなれるような、機能整備。
永井	・
福沢	・
新井	・①国との連携 ②トンネルを中心とした新規道路の整備 ③世界規模のツーリスト観光業への売り込み（県は一切動く気がないため。）
吉川	・南アルプスジオパーク認定や南アルプスユネスコパーク登録による来訪者増加にどう対応するか？観光と言う観点からも、例えば森林鉄道の復活と言った、外貨を稼げるような検討も必要。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
小戦略	① 信頼と絆で応援、健康な子育てのまちづくりの推進
①【評価できること】	
清水	・保健師による産後1～2か月児家庭訪問事業の評判が良い。（出かけられないので来てもらう、子育て環境の確認に繋がる）
古川	・保育料の軽減や里帰り出産の支援など努力をしていると考える。
山崎	・子育て世代の負担軽減をはじめ、子育て環境の整備が進んだ。
永井	・
福沢	・
新井	・市立病院や飯田病院等多くの医療機関や身近なかかりつけ医、かかりつけ薬局等の存在。
吉川	・保育料の軽減と子ども医療費の全額負担がされている。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	
古川	・川路保育園や上久堅保育園の件は、まちづくりが主体的にとあるが、逆ではないかと考える。市が積極的に主体的に取り組むべき課題と考える。
山崎	・小戦略のテーマの「健康な子育て」は、日本語になっていない。別の表現に差し替えを。
永井	・川路保育園と上久堅保育園の延長保育の運営費の一部に市は補助を出しているとする。しかし、今は、働き手の減少という日本社会の構造的問題が大きくクローズアップされている時代である。運営はともかくも財政支援については全面的に市が行うべきではないか。 ・父子家庭やサービス業で働く家庭から、土日も子どもを預けられる場所が欲しいとの要望が出されている。ファミリーサポート事業の制度改定など働きながら子育てする環境づくりを積極的に進めること。
福沢	・
新井	・ジェネレーションギャップの解消。
吉川	・

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・
古川	・より子どもを産みやすい、とあるが出産費用は後で返っては来るが、一度は高額な費用を払わなければならない。支援してはどうか。
山崎	・待機児童問題について現状ゼロとしているが、県内他市でも待機児童が発生しており、もはや都会だけの問題ではなくなっている。国の保育料無償化や働き方改革に伴い地方でもニーズが高まることは確実であり、保育士の争奪戦も取り沙汰されているなかで、実態とニーズを詳細に把握したうえで、必要な対策に早く着手する。
永井	・
福沢	・
新井	・①民間企業に勤める子育て中や今後そうなるであろう世代の意見を真摯に聞くべきである。
吉川	・母親への配慮だけでなく、父親へのアプローチも必要ではないか。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
小戦略	② すべての子どもの安心と希望の実現（子どもの貧困対策）
①【評価できること】	
清水	・
古川	・
山崎	・低所得家庭への包括的な支援が充実した。
永井	・
福沢	・
新井	・
吉川	・飯田市生活就労センター（まいさぼ飯田）としては機能を果たそうと努力をしている。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・市内にある子ども食堂を行っている団体の交流の場と一同に関するの事業発表の場があれば良いと考える。 ・低所得家庭の就労の安定につきると考えるが、難しい課題である。
山崎	・ひとり親家庭福祉会の学習支援活動を補助し、利用者246人とあるが、これが実際にどれだけ進学につながったのかについての検証が必要。
永井	・経済的な理由で学習塾に行かせたいが行かせられないとの声がある。ICTの利活用、アフタースクールの実施、学習支援活動の更なる充実など小学校から中学校までトータル的な支援制度を構築すること。
福沢	・児童虐待について相談件数が増加してことを検証していくことが必要ではないか。
新井	①家庭環境の抜本的改革。 ②貧困とされる連鎖の断ち切り。
吉川	・対象となる世帯数の把握がされていないが、ハローワークも含めて就労の意欲を植え付ける事が、先ず必要。 ・ひとり親家庭のこどもの学習意欲を高めることも必要だけれど、環境を整備することが重要。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	児童相談所の権限強化となった。躊躇することなく市も取り組んでいただきたい。
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
小戦略	③ 「飯田版！上質な子育て環境」づくり
①【評価できること】	
清水	・
古川	・引き続き安定した保育士確保に努められたい。 ・飯田の自然を生かした保育に努められたい。
山崎	・公立私立合わせて20園で「信州やまほいく」認定を取得した。 ・市民公募による「みんなで子育てサポーター」を組織し、活動を始めた。
永井	・
福沢	・
新井	・細分化された保育料等。
吉川	・「信州やまほいく」認定が長野県内では先進的な展開をしている。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・教育移住の観点からも、ふるさと定住支援課を関係課に加えるべきではないか。
古川	・
山崎	・今後の方向性において、「子育て環境を、移住したいと思える魅力として発信」とあるが、現在子育てをしている人が「この地域の子育て環境は本当に素晴らしい」と思ってもらえることの方が肝要。この視点が抜け落ちていれば、いくら外へ発信しても成果にはつながりにくい。市民意識調査のレベルでなく、もっと詳細なニーズ把握が必要。
永井	・
福沢	・
新井	①公から民へ。
吉川	・地域との連携が必要であり、ボランティア活動による支援により継続が望まれる。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・子育て世代でない方にも、地元の保育園の取組みを紹介する場所や機会を設け、地域全体にむけた「いいだ型自然保育」の周知を図ったらどうか。（上村地区の取組みのように、地元住民の本気度が内外に波及する）
古川	・
山崎	・
永井	・子どもに関する情報や子育てに関する情報提供にSNSなどの使用を検討し実施すること。
福沢	・発達支援残り組みを成人以降まで継続して行う必要があるのではないか。
新井	①公から民へ ②特に民間保育所や認定こども園のそれぞれ特色ある教育方針は十分に理解し、その特色を支えてほしい。それこそが1十人十色の子どもの個性を引き出し、将来へのステップに大きな力となる。
吉川	・親と子だけでなく、おじいちゃん・おばあちゃんとの共同体験による、絆の熟成も必要。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	5 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
小戦略	④ 結婚したいと思う若者へのライフデザイン支援
①【評価できること】	
清水	・
古川	・特になし。
山崎	・出会い機会創出に工夫を凝らし、結婚組数において前年を上回る成果があがった点。
永井	・
福沢	・
新井	・
吉川	・
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・結婚を望むのに結婚できない理由の多くは、出会いの場がないという理由だけではないと考える。（原因の深堀りが必要ではないか）
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	・ジェネレーションギャップの解消。
吉川	・「不妊治療費助成など、精神的・経済的な負担を軽減する事業を継続して実施していきます」はこの項目での対策ではない。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・
古川	・
山崎	・お見合いの効果が高いのであれば、「お節介高齢者」の活用。
永井	・
福沢	・
新井	・①民間企業に勤める子育て中や今後そうなるであろう世代の意見を真摯に聞くべきである ②民間のプロ（特に都市部）から、婚活やそれにつながるであろうパーティー企画を学ぶべき。
吉川	・未来や将来に対する考え方、自分だけでなくLG教育と言ったことによる意識改革。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
小戦略	① 地域、家族とともに進める健康づくり
①【評価できること】	
清水	・
古川	・依然特定健診受診率が低い値なのはいかなものか。
山崎	・生活習慣病重症化予防対象者のほとんどの方に保健指導が実施された。
永井	・
福沢	・特定検診の重症化予防事業が97%だった点。
新井	・
吉川	・特定健診において生活習慣病重症化予防対象者の受診率が、目標を上回った。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・子宮がん検診の受診率が低い理由の分析と受診率改善が必要ではないか。
古川	・袋井市の視察では普段の地道な努力の継続と国保になってからでは遅いので 40代50代の方への働きかけを重視しているとのことでした。当市も行っていることと思うが結果に差がありすぎます。何がどう違うのか。今一度分析・研究をされたい。
山崎	・健康づくりには、地域や家族での取組だけでは足りない。企業への出前講座について「今後は認知され依頼が増えることを期待」とあるが、期待するだけでなくもっと積極的な働きかけが必要。小戦略のテーマを「地域、企業、家族とともに進める健康づくり」としたらどうか。
永井	・「健康経営」という考え方もあり、国民健康保険によっている企業を中心に企業健康講座を積極的に行うこと。その際、若い人にも理解されるような受診のメリットを分かりやすく説明したチラシを作成し配布すること。
福沢	・
新井	①家族という概念が抜け落ちている憲法。 ②
吉川	・40歳、50歳での生活習慣病重症化予防のための検診をすることにより、発症率を下げるができる。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・
古川	・袋井市ではスーパーでも簡単な検診を行っているとか。当市も行って見てはどうか。
山崎	・特定健診受診率において、飯田市と県との数値の乖離が大きい、この理由、原因をしっかりと把握したうえで、必要な対策を講じる。
永井	・健康マイレージなど楽しみながら健康に関する取組みができる仕組みを導入すること
福沢	・特定検診の結果で飯田市民の特徴など広報する必要がある。・マイレージ制度を検討したらどうか
新井	①自分は大丈夫という、意識改革 ②美容から入る、健康法へのシフト。
吉川	
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
小戦略	② 介護予防の推進
①【評価できること】	
清水	・
古川	・ 介護予防は進められてはいるが、この予防活動でどれだけの医療・介護抑制となっているのかははっきりとはしない。今後、数値化。データ化されたい。
山崎	・ 住民主体で運営している介護予防教室の増加と、介護予防や健康づくりを行う自主グループの立ち上げ。
永井	・
福沢	・
新井	・
吉川	・ 介護予防に実際に取り組むことは、高齢者の自分自身の意識向上にもなる。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・ 特に男性の参加が増える視点を強化されたい。 ・ 介護予防の取り組みのネーミングの検討。
古川	・
山崎	・
永井	・ 夫婦であればそろって参加する、独居男性高齢者でも参加したくなるような介護予防事業の展開を図られたい。
福沢	・
新井	① 予防への予算のシフト。 ② 予防への取り組みをされた方へのプラスα制度。
吉川	・ 介護予防活動には、男性の参加、とっかかりに課題があると思われるので、きめ細かい対応が必要。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男塾的な取組み。(趣味の会のような、運動や作業といった教室、企画はどうか) ・ できれば男女一緒に取り組めるようにすることが望ましいと思うので、男性が女性に教える、または女性が男性に教える等の共同の企画が必要ではないか。 ・ 夫婦で参加できる企画。 ・ 結果的にそれが介護予防に繋がっているような状態になっていることが望ましいと考える。
古川	・
山崎	・ 介護予防に効果的と思われる軽スポーツの普及促進。
永井	・ 例えば、75歳以上の方を高齢者とするというような、人生100年時代に向けた政策の転換を行ってはどうか。
福沢	・ 介護予防事業と認定者数の関連を地域ごとに出すなど「附帯決議」を守るように努められたい。
新井	①自分は大丈夫という、意識改革 ②美容から入る、健康法へのシフト。③大手ダイエットチェーン等とのタイアップ。
吉川	
確認	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>
評価の視点	<p>①具体的な取組は良かったか (成果が評価できるか)</p> <p>②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか</p> <p>③課題認識はあっているか</p> <p>④今後の方向性はあっているか</p>

基本目標	6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
小戦略	③ みんなで食べよう楽しい食事（食育の推進）
①【評価できること】	
清水	・
古川	・食は、物事の基本。食育は大切であり引き続き進められたい。
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	・
吉川	・「飯田の食文化」と言う事がいわゆるおふくろの味と言う観点であれば、着眼点として素晴らしい。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	
古川	・
山崎	・成果として「小中学校栄養士・養護教諭の会・私立保育園栄養士の会などへ市の取組を伝えた」とあるが、これらの方々は、食育の重要性をよく理解されている方々と思われる。こういった方々が、食育の推進に大きな役割を果たして頂けるような展開が望まれる。そのうえで、まずはPTAや子育て中の親、そして保育園、学校を通じての子どもへ働きかける。現在の取組は、きめ細かさが感じられない。
永井	・
福沢	・
新井	①飲み放題プランの自粛。 ②飲食店の完全分煙ないし完全禁煙 食事場所の環境整備。
吉川	・料理教室は新しい献立も良いが、伝統の料理も継承してもらいたい。ふるさとの味として、ふるさと回帰の一助になるように。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・子ども食堂との連携はどうか。
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・健康維持に有効と考えるので、大豆からできる発酵食品・地元野菜の摂取の推進を図られたい。
新井	・農家と連携した飯田市の食と農、そして美容へのアプローチ。
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
小戦略	④ 歩こう動こう プラステン (+10分)
①【評価できること】	
清水	・
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	・
吉川	・
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	・ 大手ダイエツチェーン等とのタイアップ。
吉川	・ 一回以上の運動と言う定義が明確でない。そこへ10分を足すと言う事の現実的な説得力がない。(回数と時間はディメンジョンが異なる)

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・出前教室の展開は、商業施設や各種イベント（スポーツイベントは特に）など、人が集まる機会に出向いてはどうか。 ・農作業と健康をミックスさせて考えたらどうか（農作業について、その運動量や健康においてどれだけ効果があるかを伝えたらどうか。農作業プラステンバージョン。農業振興と健康増進のコラボが図られるのではないか） ・普段の生活の中に取り入れることができるプラス1運動。（ながらでできる運動。歯磨きしながらできる運動の紹介等）
古川	<ul style="list-style-type: none"> ・袋井市のようにポイント・マイレージなど取り入れ何歩以上歩くと何ポイントもらえ地元商店で割引があるなどしてはどうか。
山崎	<ul style="list-style-type: none"> ・企業への積極的な働きかけが大切。例えばプラステンへの取組をおこなった企業名を公表し、優秀な取組をした企業を表彰するなどのインセンティブ制度の整備。 ・一般市民向けにも、地域内での利用可能なポイントを付与するなどのインセンティブ制度の整備。
永井	・
福沢	<ul style="list-style-type: none"> ・プラステンはなかなか広まらないのではないか。マイレージ制度を検討されたい。
新井	①美容の観点からのアプローチ。
吉川	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣に、ラジオ体操やストレッチなどを明記し、回数でなく目標時間を定める。
確認	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p>
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	6 「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
小戦略	⑤ 歯と口の健康づくり
①【評価できること】	
清水	・ 歯についても、悪くなってから受診、治療するのではなく、定期健診といった予防啓発の取り組み強化。
古川	・ 特になし。
山崎	・ 1歳6ヶ月健診でカリオスタット検査を実施したこと。ただし、虫歯になりやすいと診断されれば、親がより気をつけると思うが、虫歯になりにくいと診断された場合、虫歯への関心が薄くなるかも知れず、両刃の剣となりかねない。 ・ 60歳代の残存歯数が、25年度と比べて1本以上多くなっていること。
永井	・
福沢	・ 平成29年度に6024の達成ができていること。
新井	・
吉川	・ 残存歯数が4年間で1.3本多くなった。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・
山崎	・ 健康づくりには、歯と口の健康が欠かせないということを、具体的な事例を示してもっと積極的に知らしめる努力。
永井	・
福沢	・ 歯周病予防について男性への啓発がまだまだ少ないのではないか。広める方法を検討されたい。
新井	①歯科医師会との密接な政策づくり。
吉川	・

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・さらなる予防強化のため「卑弥呼の歯がいーぜ」の周知、啓発をしたらどうか。（肥満を防ぐ、味覚の発達、言葉の発音がはっきり、脳の発達、歯の病気を防ぐ、ガンを防ぐ、胃腸の働きを促進する、全身の体力向上と全力投球。よく噛むことは全身を活性化させるために重要な働きをしていることを表す標語。昔の人は良く噛んだ）
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	①美容の観点からのアプローチ。
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
小戦略	① 多様な主体による日常生活における支援
①【評価できること】	
清水	・4つの団体等と協定を締結し、飯田市見守りネットワークを構築したこと。
古川	・
山崎	・地域ケア会議を開催した点。ただし、この会議をどう活かすかが問われている。
永井	・掲げる意図やねらいはそのとおり。
福沢	・
新井	・
吉川	・実際の効果は不明であるが、飯田市見守りネットワークが構築された。
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・取り巻く状況のところで、団塊世代が高齢期を迎え、元気な高齢者が支援を必要としている高齢者の手助けをする、とあるがこれにも限界がある と考える。やはり公的支援を基本に資格を持った方が行うべきと考えます。
山崎	・
永井	・生活支援コーディネーター（社協地域福祉コーディネーター）が機能しているのか疑問。また、どのようにして飯田市らしい仕組みをつくろうとして いるのか見えてこない。人材が不足しているのかもしれない。
福沢	・支え合いマップの全地区での作成をされたい。合わせてマップは1年に1度の更新が必要。
新井	・様々なカルチャークラブ等へ支援。
吉川	・「社会参加意欲の強い団塊の世代」と言う記述は不適切である。社会参加意欲の強い人たちが参加をして支援活動をするべきであって、根拠のない 決めつけをしてはならない。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者等（他のコンビニブランド、訪問営業型の事業者、JA等）に協力を仰ぎ、飯田市見守りネットワークのさらなる強化、充実を図る取組み。（インセンティブの検討等。また、各まちづくり委員会にも協力を仰ぎ、協定を締結してもらうことで住民への周知にも繋がらないか） ・福祉有償運送については、公共交通サービスの補完的な要素があることから、これについては特になんらかのインセンティブが必要ではない。
古川	・
山崎	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での支え合いに取り組む気持ちのある市民は、少なからずいると思われるが、顕在化していない。例えば、福祉関係のNPO法人への支援策を策定して、NPO法人との協働により、これを顕在化させるよう取り組んではどうか。 ・世代間交流の視点からは、コミュニティスクールとの関連について研究を進める。
永井	・
福沢	・
新井	・
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
小戦略	② 認知症の人とその家族を支援する連携機能の充実
①【評価できること】	
清水	・
古川	・ 特になし。
山崎	・ 国のオレンジプランで示された項目について、全て開始した。 ・ 高齢者安心おかえりカルテ作成の支援に取り組んだ。
永井	・ 全国的にはまだ多くの基礎自治体が整備できていない中であって、平成29年2月に認知症初期集中支援チームができたこと。
福沢	・
新井	・
吉川	・
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・
山崎	・ 「今後の方向性」において「若年性認知症の人への支援、認知症の人の介護者への支援、認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進、認知症の人やその家族の視点を重視した取組の各取組を総合的に実施していきます。」とあるが、支援、推進、取組を具体的にどうするのが問われる。ここが明確であることが重要。
永井	・ 認知症については、まだ浮かび上がってこない事例が多くあると思われる。しかし認知症初期集中支援チームが取扱った事例はまだ少ない。専門性がまだ発揮されていないのではないかと。積極的な広報とあり方の検討が必要。
福沢	・ 認知症カフェが1か所しかない。拡大をされたい。
新井	・
吉川	・

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・
古川	・
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	①警察と連携した、事故を起こしてしまう前の運転ライセンス自主返納への誘導。
吉川	・介護認定者以外に、認知症の症状のある人がいる。早期発見の方法を検討すべき。
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか

基本目標	7 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる
小戦略	③ 地域とともに創る障がい児・者との共生社会の実現
①【評価できること】	
清水	・
古川	・
山崎	・障がい者週間等に合わせて、障がい者理解啓発事業を実施した。
永井	・
福沢	・飯伊地域重症心身障がい児フォーラムを行い、当事者の要望を聞いていること。
新井	・
吉川	・
②【改善・修正が必要な点】	
清水	・
古川	・
山崎	・障がい者雇用の促進には、企業の理解と協力が不可欠。その意味では、主な関係課に必要な部課を加える必要がある。
永井	・
福沢	・折に触れ、障がい者差別解消法、支援法をPRすること。
新井	①企業への就労のさらなる支援策強化。
吉川	・障がい児・者であることがわからず、無意識のうちに罵倒・嫌がらせなどをする場合がある。このような人たちも同じように生活していると言う市民の理解を得るような啓発が必要。

③【新たな視点で追加すべき取組み】	
清水	・障がい児、障がい者の方たちの理解や魅力を伝えるための、より積極的な打ち出し（ネーミング）の検討。
古川	・障害を持った方も夢や希望があり増す。市は一人一人の方に寄り添い実態を把握する行動が求められていると考えます。足を運んでいただきたい。
山崎	・
永井	・
福沢	・
新井	・
吉川	・
確認	① ② ③
評価の視点	①具体的な取組は良かったか（成果が評価できるか） ②取り巻く状況の変化や今後の変化に対応できているか ③課題認識はあっているか ④今後の方向性はあっているか